

Mw e シニア会会報

Mwe Senior Club

NEWSLETTER

創刊号

No. 1, 1999年8月

目次

会長挨拶	p. 1
Mw e シニア会の設立総会開催	p. 2
Mw e シニア会の設立祝賀パーティー実施	p. 3
Mw e シニア会会則	p. 4
行事の案内と今後の活動計画	p. 5
会員の加入状況と会員名簿	p. 5
初年度予算	p. 6
会員の声	p. 6
役員一覧	表紙裏面

Mw e シニア会

Mwe シニア会

初年度役員一覧（敬称略）

会員総会・総会議長	米山 務
会長	水品 静夫
副会長	北爪 進
監事	小林 禧夫

運営委員会

会長	水品 静夫
副会長	北爪 進
会計幹事	松本 巖
幹事	赤田 邦雄
	伊東 正展
企画担当	新井 陽一
	石田 修巳
	佐藤 軍吉
	西川 敏夫
	平井 克巳

発行者	Mwe シニア会
発行責任者	水品 静夫
事務局	〒194-0203
	東京都町田市図師町6 1 5
	アイ電子株式会社 伊東 正展
TEL:	042-793-4968
FAX:	042-793-4978
E-mail:	itoh-aie@mb.asmnet.ne.jp
発行日	1999年8月21日

会長挨拶

Mw e シニア会 会長 水品 静夫

1990年にAsia Pacific Microwave Conference (APMC)が関係者の努力により初めて日本で開催され、その後順調な発展を遂げていることは周知の通りであります。

APMCの日本での開催は、我が国におけるマイクロ波分野の技術開発・産業に携わる人々が一堂に会し、一致協力してことにあたる気運を盛り上げる絶好の契機となりました。そして、APMC'90の付設開催行事として企画された技術展示会も、出展社や関係各位の強い要望に基づいて、Microwave Workshops & Exhibition (MWE)に発展して毎年開催されるようになり、現在では、APMC、MWEがこの分野における例年の重要行事となっています。

上記の経過と時機を合わせて、近年マイクロ波応用技術は、移動体通信や衛星通信を中心に飛躍的な発展を遂げ、その関連産業の新たな発展と成長が期待されるようになってきています。

APMC'90の準備期間を含めてこの間既に12年余が経過し、関係者の世代交代も行われ、さらなる発展のサイクルに入ろうとしています。このような時期に、APMC、MWEを中心にマイクロ波技術とその関連産業の発展に長年携わってきた関係者が、日本のマイクロ波技術の永続的な発展を願い、今後とも、関係者の相互親睦を深める事を目的としたシニア会の設立が提案され、準備委員会が発足し検討が重ねられてきました。



準備委員会での慎重な検討の結果、会の名称をMw eシニア会とすることとし、(1)定期的な会合を開催すること、(2)定期的にマイクロ波に関連したオピニオンを発表することを柱にして当面の活動を開始することとなりました。

定期的な会合では、講演会と親睦を目的とした各種イベントが企画されています。また、オピニオン発表の場としては、リアライズ社の月間雑誌 Break Through の中にシニア会メンバーが担当するページを設けることが企画されています。

この様な経過で、ここに Mw eシニア会の発足準備が整いました。会の発足に際し広く関係者、関連法人、関連団体のご賛同を頂き、多くの方々にご参加頂きますようお願い致します。

Mwe シニア会の設立総会開催される

Mwe シニア会設立総会は、1999年6月26日(土)、午後4時30分より、新宿のKDDホテル「ストラダ」で開催された。

総会では、米山務Mwe シニア会総会議長および水品静夫会長の挨拶があり、総会議長から初代各役員が紹介された。

北爪進副会長からの設立経過報告に続いて、各運営委員から

Mwe シニア会会則、初年度活動計画および初年度予算の提案説明があり、原案通り承認された。

[米山議長のご挨拶の趣旨] APMC発足当時の思い出として、当時の諸先輩が力強く協力して頂き、成功することが出来た。我々もAPMCの現役の委員から頼られようなシニア会でありたい。



設立総会で挨拶される米山議長

Mwe シニア会設立経過報告

1999年6月26日

北爪 進

発端

昨年XX月化学会館でのAPMC'98実行委員会のあと、お茶の水駅の横町の居酒屋にて、伊東さん、松本さん……等7人程で喉を潤しているとき、誰とはなしにAPMC'98が最後のご奉公になる、これが終了したら我々はリタイヤーして後進に道を譲る事になるうとの話がでました。そこで伊東さんが“折角苦勞して出来た人間関係がバラバラになるのはもったいない、その後も何らかの親交の場を作れないか、例えばマイクロ波シニア会のようなものが出来、親睦の場を作りたいと熱心に話されました。

準備会

12月8-11日APMC'98の昼食時、米山先生、水品先生を交えてマイクロ波シニア会設立についてご相談した、その結果一般的にマイクロ波と言うとその歴史も長く会員の範囲が広がる、又目的は何か等検討項目がいろいろあるのでそれらを検討するために準備委員会を作るのが得策との結論に至りました。

準備委員会活動

1) 当日集まった方々を準備委員として伊東さんと私が幹事を努めることで検討を開始しました。第1回準備委員会を、1月6日15時よりリアライズ社の会議室にて開催、米山先生、水品先生も遠路駆けつけて頂き、基本構想作成にご指導頂きま

した。又、会の名称を決定する事が重要であるとの見解に達し、委員各位からMWEシニア会とすることの提案が多数あった。この結果、国内委員会に使用許可申請を行い、2月2日の国内委員会で審議された。MWEそのままではなく、何らかの変形をする事を条件に許可となった。

2) 第2回準備委員会を開催し、第1回の基本構想に基づき伊東さんが作られた規約原案をもとに会員資格等詳細審議を行った。又、会の名称について国内委員会との協議を報告すると共に検討しMwe等の変形案を審議した。

3) 第3回準備委員会を開催し、会の名称の決定、規約の仕上げを行い、会員募集に関する事項の検討に入った。会の名称はMweシニア会と決定した。

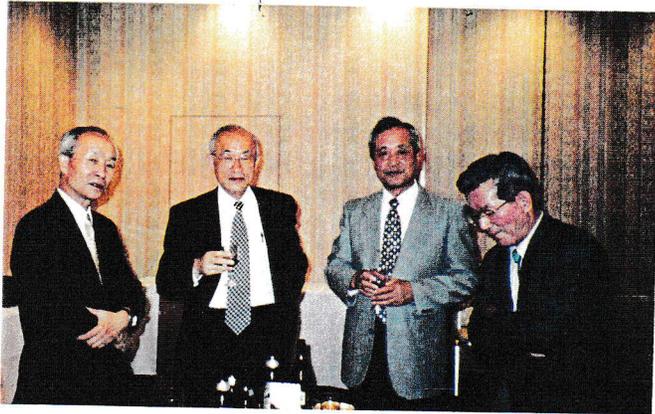
4) 第4回準備委員会を5月24日17時30分より開催、米山先生、水品先生ご出席のもと、規約の最終確認、年間活動計画、役員人事、会員勧誘の案内書等を審議し、いよいよMweシニア会発足総会、記念祝賀会を6月26日(土)大安吉日に行う事が決定されました。又、リアライズ社発行のBreak Through誌中、MT Quest欄の編集、監修を分担する事とこの欄の1部をシニア会機関誌的役割に使用する事もリアライズ社との協議の結果確認された。5月24日から本日までわずか1月で会員の集会場選定、総会準備等沢山の作業をこなして本日の開催にこぎ着けました。

5) 98年12月11日APMC'98時の集まりより約半年間で発足総会までこぎ着けられたのは、米山総会議長、水品会長の強力なご指導と準備委員会委員各位の絶大なるご協力のお陰である事にこの場をかりて厚く御礼申し上げます。

又、本日お集まりの会員各位に感謝申し上げます。

Mwe シニア会の設立祝賀パーティー盛大に行われる

Mwe シニア会設立祝賀パーティーは、総会に引き続いて午後5時30分から同ホテルのリリーの間で、20名が参加して行われた。まず、米山総会議長の乾杯の発声で開宴し、立食形式ながら会員相互の親睦の輪が次々と広がった。また、内藤先生はじめ、関会員、堀会員ほかの会員からも本会に寄せる期待や励ましのスピーチがあり、参加者一同、大いに元気づけられ、定刻を過ぎるまで、盛大に宴が行われた。



Mwe (エムウイ) シニア会会則

1. Mwe シニア会の目的

APMC, MWE を主たる活躍の場として、マイクロ波技術やマイクロ波関連産業の発展に長年携わり、多くの経験と知識を培われた関係者が、日本のマイクロ波技術の永続的な発展を願いつつ、今後とも、相互の一層の親睦を深めることを目的とする。

2. 会の活動

会の活動は原則としてボランティア活動とし、会員相互の親睦と長年の経験を生かした活動を中心とする。

- ① 会員相互の情報交換や親睦にかかわる活動。
- ② 会員中心の研修会の実施。
- ③ 会員誌の発行。
- ④ 要請により APMC, MWE の側面からの協力。
- ⑤ その他必要と思われる事項

3. 会員資格

3-1 個人会員

- ① APMC, MWE の運営に 5 年以上携わった人。
- ② マイクロ波技術やマイクロ波関連産業に長年かわり、年齢 50 歳以上で会長を除く会員 2 名以上の推薦を受けた人。

3-2

本会の目的を理解し各種の御協力をいただける、マイクロ波関連業界の個人、法人及び各種団体。

4. 入会手続き

個人会員、賛助会員ともに、本人の申し込み又は及び会員の推薦を受け、運営委員会が審査し会長が承認する。

5. 会の組織と役員（総会議長、会長、副会長、監事）及び幹事の役割

会の組織について別図のように定める。

総会議長、会長、副会長、監事の任期は 2 年とし、定例総会で選任された翌日から、翌々年の定例総会日までとする。

1 会計年度は 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

総会議長、会長、副会長、監事、会計幹事、企画担当、幹事の役割を以下のように定める。

5-1 総会議長

本会の最高議決機関である会員総会の議長として、年 1 回の定例総会のほか、必要と認められた時は臨時総会を開催し、会議を主導する。

総会議長は、定例総会において以下の議事の決定を行う。

- A. 総会議長、会長、副会長、監事の選任
- B. 会則の改定の承認
- C. 会の決算及び次年度の予算の承認
- D. その他議長が必要と認めた事項

5-2 会長、副会長

本会運営の最高責任者である会長は、日常活動の決定を行う運営委員会の委員長として、会の円滑な運営に努める。また会長は運営委員会を構成する会計幹事、幹事、企画担当の任命を行う。

副会長は、会長を補佐し、会長不在の時は会長に代わり会の運営に携わる。

5-3 監事

監事は本会の運営が適正に行われているかどうかを監査し、監査結果を文書により会長宛に報告する。

5-4 会計幹事、企画担当、幹事

運営委員会の構成メンバーである、会計幹事、企画担当、幹事は、運営委員会の決定に基づき以下の役割を負う。

会計幹事は、会費の徴収、会の日常活動の支出など会の金銭の収支に関する

一切の活動に責任を持つ。企画担当は会の活動計画を策定し、実施する。幹事は

会長の指示により、運営委員会を開催するなど、会の庶務事項に責任を持ち、会の円滑な運営に努める。

6. 会の運営資金と会費

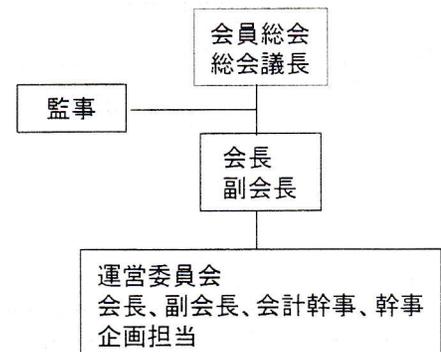
会の運営資金は、会員からの会費を主体とし、賛助会員からの協力金によって得られた収入等をもって充てる。会費は以下の通り。

個人会員：年会費は 10,000 円、途中入会の場合も同額とする。原則として定められた日までに Mwe シニア会の銀行口座に振込む。
賛助会員：協力金はその都度受け入れる。

7. 会則の改定

会則の改定は、運営委員会で審議し、会長が定例または臨時総会に提案、承認を得て後、改定される。

以上
(付則) 本会則及び初代役員、幹事は、Mwe シニア会準備委員会の承認により Mwe シニア会発足と同時に効力を有し、次期総会日まで有効とする。



別図 Mwe シニア会組織図

行事の案内と今後の活動計画

★ 第一回講演会とバーベキューパーティー開催の案内

下記のようにMweシニア会の第一回目の行事を行いますので、会員の皆様におかれましては
お誘い合わせの上多数ご参加下さるようご案内致します。

日時：1999年9月4日 12:30～16:30

(1) 第一回講演会

会場：うぐいす会館 大会議室
南足柄市広町

講師：北爪 進 氏

(2) バーベキューパーティー

場所：足柄森林公園丸太の森1544
小田原駅—大雄山線—バス（10分）

参加費：3000円

申し込み期日：8月27日（問い合わせ：石田）

★ 今後の活動計画

Mweシニア会の活動として、右表のような各種行事を計画しております。活動をご理解いただき、積極的な参加を期待しております。

会員名簿（五十音順・敬称略）

赤田 邦雄 (k-akada@midoriya.co.jp)

新井 陽一 (arai-aie@mb.asmnet.ne.jp)

栗井 邦雄 (awai@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp)

井下 佳弘 (ishita.yoshihiro@aa.anritsu.co.jp)

石田 修巳 (ishida@isl.melco.co.jp)

伊東 正展 (itoh-aie@mb.asmnet.ne.jp)

上野 清 (ueno@aa.anritsu.co.jp)

北爪 進 (kitazume@mx.meshnet.or.jp)

許 端邦 (kyo@kyolab3.cc4.kanagawa-u.ac.jp)

加藤 吉彦 (ykato@kikusui.co.jp)

小林 禰夫 (yoshio@reso.ees.saitama-u.ac.jp)

小牧 省三 (komaki@comm.eng.osaka-u.ac.jp)

小山 悦雄 (koyama@tecda.co.jp)

酒井 正人 (sakai@plo.msc.yh.nec.co.jp)

佐藤 軍吉 (satoh@po.tdp.co.jp)

6月26日	設立総会	設立記念パーティー	
8月	講演会	バーベキューパーティー	会誌
9月	講演会	薫製パーティー	
10月			
11月	講演会	きき酒パーティー	会誌
12月	MWE参加	親睦会	
1月		新年会、餅つき大会	
2月			会誌
3月	講演会	花見大会	
4月			
5月	会員総会	記念パーティー	会誌

Mweシニア会 会員の加入状況

Mweシニア会の会員数は、1999年7月31日現在、30名です。年度目標会員数は、40名としており、会員数の拡大にもご協力願います。

関 周 (sseki@stc.sekitech.co.jp)

内藤 喜之 (titech.pres@sv1.jim.titech.ac.jp)

名村 久機 (h.namura@fmt.ts.fujitsu.co.jp)

西川 敏夫 (nisikawa@murata.co.jp)

橋本 勉 (t-hashish@cc.teu.ac.jp)

平井 克巳 (hiraik@al.mbn.or.jp)

平地 康剛 (hirati@to.fqd.fujitsu.co.jp)

平野 裕 (hirano@to.fqd.fujitsu.co.jp)

堀 重和 (shigekazu.hori@toshiba.co.jp)

牧本 三夫 (makimoto@mrit.mei.co.jp)

松本 巖 (imatsumoto@stc.sekitech.co.jp)

水品 静夫 (smizu@mail.yaramaika.ne.jp)

山下 榮吉 (yamashita@mth.biglobe.ne.jp)

山下 與慶 (itoh-aie@mb.asmnet.ne.jp)

米山 務 (yone@riec.tohoku.ac.jp)

Mw e シニア会初年度予算

1999.6.26

Mw e シニア会設立総会において、初年度の収支計画が右記のとおり承認されました。

初年度における会の運営は、講演会及び懇親会を中心としたもので計画されていますが、計画どおりの賛助金・寄付金が集った場合は、これを会の運営のためにいかに活用するかが、課題になると思われます。この点についての、会員各位のご意見を歓迎します。

会員の声

今回は、設立祝賀パーティーの様子をお伝えし、役員一同のご挨拶に変えます。

設立祝賀パーティーでは、内藤先生（東工大名譽教授）より、MTT-Sに20年以上前、日本から初めて参加された人達がいまだに先生を中心に年1回集まっているとのお話を披露され、マイクロ波技術者の集まりである本会に寄せる期待と重要性を指摘された。

関会員（セキテクノトロン相談役）からは、多大なご寄付をいただき、会場は多いに盛り上ると同時に、当会の活動に対し責任の大きさを痛感した。

堀会員（MWE'99実行委員長）からは、近い将来 MWE にシニア会のコーナーを作ってもいいのではないかと提案があり、MWE と当会の力強い連帯の呼びかけがあった。

このように、会員からの期待は大きいものがあります。

我々役員一同、心を引き締めて会の発展のため努力していきたいと思っています。（役員一同）

編集後記：本誌を創刊するにあたり、本誌の名前を「Mw e シニア会会報」とすること、会報の

Mweシニア会1999年度収支計画

項目	金額(円)
1収入の部	
-1 年会費	400,000
-2 懇親会費	900,000
-3 賛助金・寄付金	1,500,000
-4 雑収入	1,000
収入合計	2,801,000
2支出の部	
-1 講演会費	200,000
-2 行事費(懇親会費用)	900,000
-3 会誌作成費	10,000
-4 会議・交通費	180,000
-5 印刷費	5,000
-6 事務用品費	30,000
-7 通信費	10,000
-8 雑費	5,000
支出合計	1,340,000
3収支差額(次期繰越剰余金)	1,461,000

英語名を“Mw e Senior Club NEWS LETTER”とすることに運営委員会で決まりました。書体は審議の対象になりませんでした。とくにNEWS LETTERは、MTT-Sを参考にして大文字としました。Mwe シニア会が本会誌を通じて会員相互の親睦と情報交換の輪を広める一助になればと願っている次第です。会と同様、永続的な展開は、会員各位の積極的な支援があって、はじめて可能となります。会員の声をコミュニケーションの生かせる場として設けてあります。皆様からの投稿を期待しております。今回は、幹事の方に快く受けて頂きました。なお、本誌は、電子メールによる配信とすることとしております。ご支援よろしく申し上げます（企画担当）。